

# クマモト・オイスター安定生産技術開発試験

養殖研究部 清田 純平

## クマモト・オイスターとは？



小粒だけど、うまい。  
熊本生まれ・熊本育ちの  
「クマモト・オイスター」。

シカメガキ *Crassostrea sikamea* は、昭和20年代に種カキとして対米輸出が行われ、現在、アメリカでは、クマモト・オイスターの銘柄で人気ブランドとなっています。

当センターでは、クマモト・オイスターの復活に取り組み、平成17年（2005年）、八代海にクマモト・オイスターが現存していることを確認し、それらを親として、同年から稚貝の生産に取り組み、平成21年には、100,000個のクマモト・オイスター稚貝を生産することに成功しました。生産した稚貝は生産者に配付し、全国への販売に取り組んでいます。



## クマモト・オイスターの種苗生産

クマモト・オイスターの稚貝生産の流れを図1に示しました。稚貝生産は、まず親貝を良い卵や精子を生むように仕立てることから始まります。仕立ては、水槽の中に親貝を収容し、適した水温に調整して、餌として植物プランクトンを与えます。2か月間程度仕立てた後、切開法（メスで生殖巣を切った後、卵や精子を放出させる方法）で採卵と採精を行い、人工受精を行います。受精卵は受精後12時間程度でD型と呼ばれる幼生に変態します。この後、幼生は3~4週間海水中を浮遊しながら成熟幼生に成長します。成熟幼生は眼点と呼ばれる器官が現れ着底し、付着稚貝になり、中間育成及び海上養殖を経て1年~2年をかけて成貝へと成長します。

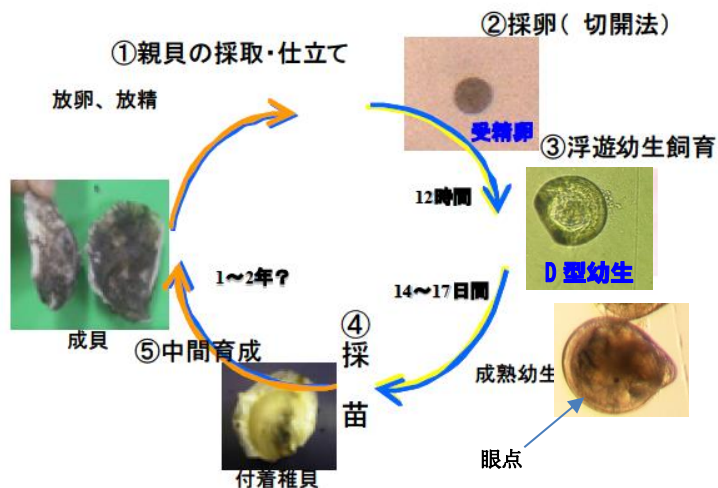


図1 稚貝生産の流れ

## 現在の当センターでの取り組み

当センターでは、クマモト・オイスターを安定的に供給し本県の水産物ブランドとして確立するため、以下のように安定生産技術の開発に向けた試験研究を行っています。

### 【生産技術開発】

- (1) へい死原因の一つである性成熟をコントロールし、高成長させる中間育成技術を開発しています。
- (2) 養殖現場において求められる越夏技術の開発を行っています。

### 【優良系統選抜育種・系統保存】

- (1) 養殖現場で生産された貝を用いて優良系統の親貝選抜を行い、これにより優良系統の作出のための種苗生産・中間育成を行っています。
- (2) 種苗生産機関である「くまもと里海づくり協会」へ量産用の親貝を提供しています。

